

福祉健康委員会調査視察

実施日：令和7年5月7日～9日

視察の目的

本委員会では、市民のみなさんが「将来にわたり安心して医療・介護が受けられる体制づくりの調査・研究」を重点事項に掲げていることから、本年3月に報告された舞鶴市医療機能最適化検討会議による報告書の回答を踏まえ、医療機能の再編や病院の統合に関し、長浜市の事例を調査することとした。

また、もう一つの重点事項である「高齢者や障害のある人とその家族が安心して生活することができる環境の調査・研究」においては、その支援策（ケアラー支援）の調査として、全国で唯一の常設型の家族介護者支援センターであるてとりんハウスと家族介護者の負担軽減策を推進しておられる大田区の事例を調査することとした。



舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。

視察先及び日程

日	程	視察先	調査事項
令和7年5月7日(水)	13時30分～15時00分	滋賀県長浜市	病院機能の再編について
令和7年5月8日(木)	9時30分～11時30分	家族介護者支援センターてとりんハウス (愛知県春日井市)	家族介護者等への支援について
令和7年5月9日(金)	9時30分～11時30分	東京都大田区	家族介護者等への支援について

福祉健康委員会調査視察

実施日：令和7年5月7日～9日

【滋賀県長浜市】調査事項：病院機能の再編について

《長浜市の取組の概要》

- ◇ 2023年に「長浜市病院再編方針」が策定され、市立長浜病院、長浜市立湖北病院、長浜赤十字病院、セフィロト病院の4病院がそれぞれの役割や医療機能を踏まえ、持続可能で質の高い医療を提供するため、将来目指す姿に向けて検討を進められている。
- ◇ 方針表明後、「湖北圏域の医療機能の将来のあるべき姿」の実現に向けた検討を進めた後、「湖北圏域における病院ビジョン」が取りまとめられ、既存の4病院の役割と機能を踏まえ、長浜市立の2病院と長浜赤十字病院を再編し、右図のとおり「ABC病院」として新たな医療体制を構築することが示されている。
- ◇ 湖北圏域における医療提供体制を持続可能なものとし、将来にわたる質の高い医療提供体制に向けて検討を進められている。



<https://www.city.nagahama.lg.jp/cmsfiles/contents/0000013/13267/saihenhousin-panfu.pdf>
 長浜市：病院機能の再編案

《委員の所感》

- ◇ 病院経営に指定管理者方式を導入することの困難さを聞かせていただき、さらに予測できる課題を解決しながら、よりよい舞鶴市の病院再編に向けた今後の調査・審査に役立つと確信した。
- ◇ 人材確保に向けた人材育成も看護師不足の対応として行わなければならないし、専門分野の看護師教育を含めた教育機関の充実を舞鶴市としても病院再編に先立って進めていかなければ、計画段階で頓挫してしまう可能性を否定できないものになってしまうことも考えなければならない。
 何事も土台をしっかりと固めた上での周到な準備が必要だと感じた。

福祉健康委員会調査視察

実施日：令和7年5月7日～9日

【家族介護者支援センターてとりんハウス(愛知県春日井市)】

調査事項：家族介護者等への支援について

《てとりんハウスの取組の概要》

- ◇ 2010年に家族介護者ら4名により任意団体を設立したのちに、2014年に家族介護者支援センターてとりんハウスを開設。
- ◇ **全国初の常設の介護者支援施設**として、ケアラー&認知症カフェ、家族介護者の集い、趣味・教養、健康づくりの企画など、家族介護者の負担軽減のために多岐にわたる支援を提供されている。
- ◇ 2017年からは、介護保険事業として、「デイサービスてとりん村」として、地域密着型通所介護を展開し、要介護者の日常の生活をサポートされている。

《委員の所感》

◇ ケアラー支援は、孤立から社会参加が望ましく、カフェ常設型拠点は気軽に相談できる窓口にもなりえていることから非常に望ましいものであると感じた。

また、カフェを通じて専門職を結び付けていることも非常に重要な活動だと感じた。ただし、現在の活動がNPO法人として実施できる限界であり、行政との連携により法制化の動きに参加・協力する必要性を説いていた。民間主体だからできることの先進性について学ばせていただいたことを参考にしたい。

◇ 現状、問題視されるワーキングケアラーやヤングケアラーに対する支援が社会的問題として取り上げられ、浮き彫りにされてきたことから、本市においても早急に支援対策を考え、推し進めるべきであると考えている。

ケアラー支援は、孤立から社会参加へ



福祉健康委員会調査視察

実施日：令和7年5月7日～9日

【東京都大田区】調査事項：家族介護者等への支援について

《大田区の取組の概要》

- ◇ 「家族介護者支援ホームヘルプサービス事業」として、大森、調布、蒲田、糎谷・羽田の4地域で提供されており、大田区に住民登録があり、要介護3以上の認定を受けて自宅で家族の介護を受けている方を対象にサービスを展開しておられる。
- ◇ 介護者の孤立防止と精神的負担の軽減を図るため、「家族介護者情報誌 ゆうゆう」を年4回発行。介護家族会の紹介役の高齢福祉サービスなどの情報を提供し、家族介護者を側面から支援している。
- ◇ 「仕事と介護の両立支援コーディネート事業」として、家族介護者の負担を軽減し、要介護者へ適切なサービスを提供することで介護離職を防止する事業を展開されている。

《委員の所感》

- ◇ 介護者の声を反映した事業で有効と考える。条例や制度がなくても自治体でできることから始めることが重要と感じた。
- ◇ 様々な制度の利用は自らを助けることになるが、知らなければ利用できないことから、支援事業内容について正しく理解し、利用できる状況整備が必要と考える。
- ◇ 既存の制度だけでは、家族介護者の負担を軽減することは難しく、家族介護者への支援の充実が求められている。この傾向は、大田区に限ったことではなく本市においても同様であり、同様の制度の必要性を感じた。

https://www.city.ota.tokyo.jp/seikatsu/fukushi/kourei/kazokukaigosya/jyohoshi_yuuyu/index.html
 東京都大田区
 家族介護者情報誌 ゆうゆう



https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseijoho/info/ota_70th/on-sale_hane-pyon-goods.html
 東京都大田区 HP
 公式PRキャラクター「はねぴよん」

